

[001] 九州大学農学部農場年報 : 第1号

<https://doi.org/10.15017/13211>

出版情報 : 九州大学農学部農場年報. 1, 1997-03. 九州大学農学部附属農場
バージョン :
権利関係 :

IV. 研究

1. 研究課題

当農場では教官、技官一体となり種々の研究に取り組むとともに、学内外の研究者との共同研究にも力を注いでいる。以下に1994～1995年度に実施した主要な研究課題を示した。

農場教官、技官による研究

- ブドウ遺伝資源のデータベース化に関する研究（研究部長、1994-1995）
- ブドウF₁実生の量的形質の遺伝力に関する研究（同、1994-1995）
- ブドウ遺伝資源の評価法に関する研究（同、1994）
- カキの遺伝資源の評価法に関する研究（同、1995）
- 香酸カンキツの化学成分に関する研究（研究部長・果樹研究室、1994-1995）
- 家畜糞尿処理と利用に関する研究（調査室、1994-1995）
- 肉用牛子取り生産に関する研究（同、1994-1995）
- 入会牧野の畜産的利用に関する研究（同、1994-1995）
- 肥後農法の形成と展開に関する研究（同、1994-1995）
- 農場実習の改善に関する研究（同、1994-1995）
- ダイズ遺伝資源の保存と評価（作物研究室、1994-1995）
- 水田転換作物の生産技術に関する研究（同、1994-1995）
- 水稻の低農薬栽培に関する生産生態学的基礎研究（同、1994）
- 発展途上国への適用を含む耕耘の基礎と体系化（機械研究室、1994-1995）
- 農業機械における視線入力の基礎研究（同、1995）
- シクラメン属植物のアイソザイム分析とその育種的利用（蔬菜・花卉研究室、1994-1995）
- シカクマメの育種に関する研究（同、1994-1995）
- フジマメ (*Lablab purpureus* L.) の花成に関する遺伝・生理学的研究（同、1995）
- ブドウの倍数体及び異数体育種に関する研究（果樹研究室、1994-1995）
- カンキツの台木育種に関する研究（同、1994-1995）
- カンキツの生殖生理に関する研究（同、1994-1995）
- 果樹類の種間、属間雑種に関する研究（同、1994-1995）
- 果樹類の系統発生に関する研究（同、1994-1995）
- マメ科牧草フェジービーンの導入に関する研究（畜産研究室、1994-1995）
- 乳質に及ぼす飼料作物の影響に関する研究（同、1994）
- 在来家畜（地鶏・山羊）の性能に関する基礎研究（同、1994-1995）
- 放牧育成牛の発育向上に関する研究（動物生産部門、1994-1995）
- 放牧利用による肉用牛の群管理技術向上のための基礎的研究（同、1994-1995）
- 暖地高原地域における放牧畜産の成立要因に関する研究（同、1994-1995）
- 放牧利用による肉用牛の低コスト生産技術の開発（同、1994-1995）
- 牧草地に侵入したエゾノギシギシの防除法の確立（同、1994-1995）

学部教官による研究（農場教官との共同研究を含む）

水稻遺伝資源保存およびイネ育種に関する研究

（遺伝子資源研究センター・植物遺伝子部門および農学第一講座、1994-1995）

ダイズにおける優良根粒菌着生系統の選抜に関する研究

- 優良根粒菌との親和性のある品種の選抜並びに育種 - （植物栄養肥料学講座、1994）

肥料連用畑における雑草相の解析（土壌微生物学講座、1994-1995）

水田における窒素固定菌の利用に関する研究（同、1994-1995）

熱帯産マメ科作物の保存と評価（農学第二講座、1994-1995）

登熟期の気象条件がアズキの品質に及ぼす影響について（同、1994-1995）

農用機械・施設の騒音に関する研究

- 穀物乾燥機の消音装置の開発 - （農産機械工学講座、1994-1995）

環境保全型機械化栽培に関する研究（農業機械学講座、1994-1995）

コンバインの振動・騒音性に関する研究（農業機械学講座、1994-1995）

アスパラガスの雌雄性に関する研究（園芸学講座、1994-1995）

受精卵移植に関する基礎研究（畜産学第一講座、1994）

トカラ山羊下垂体の免疫組織科学的研究（畜産学第二講座、1994-1995）

肉用牛の成長に伴う筋線維型構成割合の変化に関する研究（同、1994-1995）

糖蜜給与が牛屠体肉色に及ぼす効果（同、1995）

肉用牛の肉質と筋線維型構成割合の相関に関する研究（同、1994-1995）

フタトゲチマダニの研究（動物学講座、1994）

ハタネズミの捕獲調査（同、1994-1995）

湿田へのマメ科作物の導入に関する研究（飼料学講座、1994-1995）

暖地型牧草バヒアグラスの利用に関する研究（同、1995）

高原放牧地の草地生態（同、1994-1995）

トカラ山羊の採食及び反芻行動に関する研究（同、1994-1995）

粗飼料給与方式の違いが屋外肥育牛の群行動に及ぼす影響（同、1994）

学外研究者による利用（農場教官との共同研究を含む）

ヒューマンインタフェースと使いやすい農業機械に関する基礎研究

- 多機能農業用電気機械の開発 - （九州電力（株）総合研究所、1994-1995）

鶏の成長および繁殖に関する研究

- 岐阜地鶏の成長及び性成熟 - （三池農業高校、1994）

肥育牛の低コスト生産の研究

- 肥育前期放牧飼養による肥育の低コスト化 - （九州農試、1994-1995）

阿蘇、久住における草地の有効利用に関する研究

- 野草地と改良草地の組合せ利用による親・仔牛の放牧方法 - （九州東海大学、1994-1995）

高原地域における草地の生産と利用に関する調査（九州農政局、1994-1995）

肥育牛の効率的飼養方法の開発

- 育成期における高エネルギー給与が肥育成績に及ぼす影響 -（熊本県農業センター、1995）

2. 研究業績

学会誌（論文抄録）

1994 年度

岡野 香・古賀 脩 久連子鶏における銀笹羽装の遺伝について. 家禽会誌 31(3):195-200.

熊本県で飼育保存されている久連子鶏の羽色には、赤笹、金笹、銀笹、黒色が知られている。本報は久連子鶏における黒色の多い銀笹羽装（黒色銀笹）の遺伝性について追求したものである。黒色銀笹を示す久連子鶏雄 2羽、雌 1羽および黒色の雌 1羽を用い、これらの雌雄の交配を行い、頭部や腹部に黄色ないし白色が認められるが、背面は黒色のヒナが 53羽得られた。これらのヒナは生育後、雄はすべてが黒色銀笹を示したが、雌ではほとんどのものが黒色羽装を示し、残りは頸部に銀色羽毛を持つ黒色銀笹を示した。一方、雄 2羽は上記の交配の他に、黄色綿毛・黄笹羽装の岐阜地鶏雌（*e^ve/s*）に交配し、F₁鶏およびF₂鶏を作出した。F₁鶏はすべてが黒色綿毛であり、成鶏羽装も久連子鶏とほぼ同様であった。F₂鶏では黒色綿毛ヒナ 107 および黄色綿毛ヒナ 29羽が得られ、この比は 3:1 と考えられる。したがって、久連子鶏の *E*-locus には *e^v* 遺伝子に対し優勢であり、黒色綿毛・黒色銀笹を支配する遺伝子（*E^R*）が存在すると考えられる。

さらに、F₁鶏雄を縦斑綿毛・赤笹羽装の岐阜地鶏雌（*e^ee/s*）に交配した。その結果、黒色綿毛ヒナ 37、縦斑綿毛 24 ヒナおよび黄色綿毛ヒナ 23羽が得られ、この比はほぼ 2:1:1 であると考えられる。なお、黒色ヒナの雄はすべてが黒色銀笹または黒色赤笹を示したが、雌では黒色を示すもの、黒色で頸部に銀色羽毛または金色羽毛（赤笹羽装の雌と同様）を持つものの三つの型に区分された。また、縦斑ヒナの雌雄および黄色ヒナの雄は銀笹または赤笹羽装を示したが、しかし、黄色ヒナの雌は銀笹または黄笹羽装を示した。このように、この交配では性にかかわらず、得られたすべてのヒナは、一方が銀笹、他方が赤笹（または黄笹）羽装を示した。これらの結果より、久連子鶏の *E*-locus は *E^R* であり、*S*-locus は *S* であると推察された。

（後藤貴文）・尾野喜孝・中西良孝・梅津頼三郎ほか 4 名 黒毛和種去勢雄牛の脂肪交雑度の異なる胸最長筋における筋線維型構成の比較. 日畜会報 65（5）：454-463.

黒毛和種の去勢雄牛を用いて、胸最長筋の第 6 胸椎（LT I 面）、第 11 胸椎（LT II 面）および第 5 腰椎（LT III 面）位の背側、中心、腹側、内側および外側部における筋線維型構成について、脂肪交雑度の高かった A 群（Beef Marbling Standard No.5 以上）と低かった B 群（Beef Marbling Standard No.4 以下）間で比較検討した。筋線維は、酵素組織化学的に、 β R 型筋線維（slow-twitch oxidative fibers）、 α R 型筋線維（fast-twitch oxidative fibers）および α W 型筋線維（fast-twitch glycolytic fibers）に区別された。両群の胸最長筋において、筋線維型構造は、LT I 面で LT II および LT III 面よりも β R 型筋線維が多く、 α W 型筋線維が少なかった。これに対

し α W型筋線維の構成割合はLT I、LT II、LT III面において変化を示さなかった。一方、LT IIとLT III両面間には筋線維型の構成割合の変化は見られなかった。A群のLT III面では背側部で β R型筋線維の構成割合が最も高く、腹側部で最も低く、それに対し α W型筋線維の構成割合は背側部で他の4部位よりも有意に低かった。LT IとLT III両面間において、B群はA群よりも α R型筋線維の構成割合が有意に高かった。筋線維の直径はLT I面の α R型筋線維と α W型筋線維がB群でA群よりも有意に大きかった。

1995年度

(Ibi A.), T. Mochizuki et al. On the relation between position of the lowest elongated internode (LEI) and elongation ability of internodes under rising water conditions in Asian deepwater rice, *Oryza sativa* L. Jpn. J. Trop. Agr. 39(2):76-81.

Using Asian deepwater rice (*Oryza sativa* L.) varieties from different countries, the elongation ability of the internodes was examined by increasing the water depth. When the seedlings reached the 10-11th or the 13-14th leaf stage, submergence treatment was initiated at the rate of 2 cm/day or 4 cm/day. In 25 varieties in which the LEI position corresponded to the 9-10th internode, plants of all varieties used could grow until the end of the treatments (ca. 190 cm water depth or 85 days in the 2 cm/day- and 280 cm or 65 days in the 4 cm/day-submerged lots). Differences in plant growth were not appreciable not only among varieties of the same country but also among varieties from different countries. In 17 varieties in which the LEI position corresponded to the 12-13th internode, three varieties in the 2 cm/day- and 13 varieties in the 4 cm/day-submerged lots could not continue to grow until the end of the treatment. In those varieties, the elongation ability of the internodes especially in the lower position was lower than that of the varieties which could grow until the end of the treatment. In Asian deepwater rice, it appears that the earlier the growth stage at which internode elongation occurs, the higher the elongation ability of internodes is. Furthermore, in the deepwater rice varieties used, increase of the water depth by 4 cm per day may be the limit for the elongation ability of internodes.

(栗村光男)・比良松道一ほか1名 柱頭分泌液を利用した人工培地におけるイチジク花粉の発芽. 園学雑 63(4):739-743.

人工培地上でイチジクの花粉を発芽させるため、雌花の柱頭分泌液の添加効果について検討した。10%ショ糖を添加した寒天培地に‘榊井ドーフィン’の雌花を置床し(2~3本/cm²)、5~15℃で3時間拡散させた後、カプリ系‘VC-180’の花粉を置床して、25~30℃で7時間程度培養したところ、70%以上の高い発芽率を示し、花粉管伸長も順調であった。この場合、‘榊井ドーフィン’の雌花としては、横径20~32mmの秋果から採取したものが最適であった。また、‘VC-180’の夏果の熟度がかかなり異なっても、花粉の発芽率には全く差がみられなかった。

Ono, Y. et al. Effects of porcine somatotropin administration on porcine muscles located within different regions of the body. J. Anim. Sci. 73:2282-2288.

This research was conducted to evaluate the characteristics of muscle fiber growth and the effects of porcine somatotropin (pST; $100 \mu\text{g} \cdot \text{kg}^{-1} \text{BW} \cdot \text{d}^{-1}$) administration on the morphology of 12 muscles located in different regions of the body in barrows growing from 20 to 90 kg BW. In the course of the growth of control pigs, the percentage distribution of β R fibers did not show any changes in all 12 muscles, whereas the percentage of α R and α W fibers changed in different patterns in different muscles. The administration of pST had no effect on fiber type distribution. The cross-sectional area of α W fibers was the largest of the three fiber types, and β R and α R fibers were of similar size in all muscles. All fiber types in all muscles increased in cross-sectional area by an average of 120% from 20 to 60 kg BW. After 60 kg BW, the growth of α W fibers in seven (early maturing) muscles and α R fibers in one muscle out of the 12 muscles was not apparent. The increase of their cross-sectional area was an average of 12%, but the area of the other muscle fibers continued to increase by an average of 38% until 90 kg BW. The administration of pST increased the area of α W fibers in four out of seven of these early-maturing muscles by an average of 25%, suggesting some possible relationships between pST effects and the rate of muscle fiber maturation. Most of the muscles that responded to pST treatment were located in hindlimb region.

(後藤貴文)・尾野喜孝・中西良孝・梅津頼三郎ほか4名 黒毛和種去勢雄牛の大腿二頭筋前部における筋線維型構成の部位間での比較. 日畜会報 66 (1) : 62-71.

黒毛和種去勢雄牛の大腿二頭筋前部の筋線維型構成を追及し、その構成割合と後肢部の機能との関連について検討した。材料肉片は大腿二頭筋前部を近位、中位および遠位に3等分(大割部位)し、さらにそれぞれの中心部で浅層から深層までを5等分し(小割部位)、計15の部位で採取した。ASHMOREらの方法に従って筋線維型を β R型、 α R型および α W型の3型に分類して、その筋線維型構成を調査した。大割部位間で比較すると β R型筋線維は近位(52.4%)で中位(36.5%)、遠位(32.4%)よりも有意に多く存在した。それに対し α W型筋線維は近位(25.2%)から中位(37.6%)、遠位(41.8%)に行くにしたがって有意に多くなった。 α R型筋線維は全体的に最も少なく、特に近位(22.5%)で中位(26.5%)、遠位(25.8%)よりも有意に少ない傾向を示した。浅層から深層方向で比較すると近位の部位では各型の筋線維とも割合の変化は見られなかった。遠位の部位で β R型、 α W型筋線維は深層部よりも浅層部で多く、 α R型筋線維ではその逆の関係を示した。中位の部位でも α W型筋線維は浅層部で深層部よりも多く、逆に α R型筋線維は少なかった。以上のように黒毛和種去勢牛の大腿二頭筋前部の筋線維型構成は部位によって異なり、その機能的な分化を示した。すなわち、近位の部位は姿勢保持に、中位、遠位の部位は後肢の運動に適応しているものと推察された。

西村光博 異なる土壤水分条件下におけるオーチャードグラス (*Dactylis glomerata* L.) の早期発芽に及ぼす種子浸漬および風乾処理の影響. 日草誌 41: 263-266.

本研究は、低投入持続型草地農業を重視する観点から、荒廃草地への追播による簡易な更新法の確立のため、荒廃した草地へ追播した牧草の定着促進のための追播技術に関する基礎的資料を得ることを目的とした。異なる降水状況を想定した土壤水分条件下におけるオーチャードグラスの浸漬および風乾処理が初期発芽に及ぼす影響を明らかにして、播種床の水分環境状況に応じた追播における早期発芽促進に対する種子の前処理の有効性を検討した。その結果、オーチャードグラスの1日浸漬と播種床の水分環境に応じた風乾処理は播種後、早期の発芽性向上に対して極めて有効であることが明らかとなり、荒廃草地へ追播したオーチャードグラスの早期発芽促進に対する種子前処理、特に少雨期における同処理法の重要性が示唆された。

国際会議などのプロシーディングス

1994年度

Wakana, A. Application of isozymes in breeding and phylogeny of grape. The 5th International Joint Seminar on the Future of Agricultural Science in Japan and Korea. 9-17.

Hiramatsu, M. et al. A survey of microspore embryogenesis in leaf mustard (*Brassica juncea*). Acta Hort., 392:139-145.

1995年度

(Furuya T.), T. Mochizuki et al. Growth habit of an aquatic weed, *Aponogeton undulatus* Roxb., and its physiological characteristics. Proceedings of 5th Asian-Pacific Weed Science Society Conference, I(B):493-496.

Nakaji, K. and J. Liu Human interface for the next generation agricultural machinery. Proceedings of International Symposium on Automation and Robotics in Bioproduction and Processing, JSAM, 2:297-303.

学報、農場報告など

1994年度

白石眞一、若菜章ほか2名 ブドウにおけるアイソザイム多型と系統発生並びに品種分化に関する研究. 九大農場研究資料, 16:11-50.

白石眞一ほか1名 ブドウにおける果実成熟と果皮アントシアニン. 九大農学芸誌, 48(3,4): 247-254.

白石眞一ほか1名 ブドウにおける栽培品種の果皮アントシアニン. 九大農学芸誌, 48(3,4): 255-262.

Shiraishi, S., A. Wakana, M. Hiramatsu et al. Variation of glucosephosphate isomerase and phosphoglucosylase isozymes in *Vitis* and their use in grape breeding. J. Fac. Agr., Kyushu Univ., 38(3,4):

255-272.

(Shiraishi, M.), S. Shiraishi et al. Image processing on morphological traits of grape germplasm. J. Fac. Agr., Kyushu Univ., 38(3,4): 273-277.

白石眞一ほか1名 生食用ブドウの果色と果皮アントシアニンとの関係 一果色育種への応用一. 九大農場報告, 7:1-72.

武藤軍一郎・岡野香・中野豊・山田定雄・古澤弘敏・福留 功 附属農場における乳牛の乳量および牛乳中成分の変動. 九大農場研究資料, 16:51-54.

武藤軍一郎 中山間部における農業の動向 一農業の担い手と土地基盤整備を中心に一. 九大農場研究資料, 16:55-58.

梅津頼三郎・中西良孝・衛藤哲次ほか1名 採草地内のエゾノギシギシ (*Rumex obtusifolius*) の薬剤防除に関する研究 1. MDBA 散布後1年間の生育パターン. 九大農学芸誌, 49(1,2):87-94.

梅津頼三郎・中西良孝・衛藤哲次ほか1名 採草地内のエゾノギシギシ (*Rumex obtusifolius*) の薬剤防除に関する研究 2. 牧草追播とMDBA 散布の併用効果. 九大農学芸誌, 49(1,2):95-100.

1995年度

(Rusdy, M.), Y. Nakano et al. The growth and nutritive value of *Imperata cylindrica* var. *koenigii* as influenced by nitrogen fertilization and cutting interval. J. Fac. Agr., Kyushu Univ., 39(3,4):183-190.

(Rusdy, M.), Y. Nakano et al. Reserve carbohydrates changes in *Imperata cylindrica* var. *koenigii* following defoliation. J. Fac. Agr., Kyushu Univ., 39(3,4):191-196.

(Shimojo, M.), Y. Nakano et al. Estimation of light intercepting performance of plant canopy using mean leaf area weighted with relative light intensity. J. Fac. Agr., Kyushu Univ., 39(3,4):235-242.

Shiraishi, S. et al. Organic acids in the flavedo and albedo of acid lemon and Japanese acid citrus by gas chromatography. J. Fac. Agr., Kyushu Univ., 40(1・2):29-37.

Shiraishi, S. et al. Organic acids in the juice of acid lemon and Japanese acid citrus by gas chromatography. J. Fac. Agr., Kyushu Univ., 40(1・2):39-44.

Shiraishi, S. et al. Sugar accumulation types among acid citrus as might be proposed by seasonal changes in reducing and non-reducing sugar ratios in the juice. J. Fac. Agr., Kyushu Univ., 40(1・2):93-103.

Shiraishi, S. et al. A preliminary study on cross breeding of acid citrus with reference to juice qualities and physical fruit characteristics. J. Fac. Agr., Kyushu Univ., 40(1・2):105-115.

(豊後貴嗣)・中野 豊・岡野 香ほか3名 トカラヤギの反芻行動に及ぼす多回給餌の影響. 九大農学芸誌, 49(3,4):191-196.

比良松道一・若菜章 胚珠・胚培養による異数体ブドウの作出(予報). 九大農場研究資料, 17:14-15.

著書、雑誌など

1994年度

- (橋口公一)・中司 敬ほか1名 海外における農業機械開発の動向分析、未来型農業機械開発研究戦略の策定に関する調査(第2分冊)－2010年の未来型農業機械－、II.3. 農業機械学会、89-97.
- 武藤軍一郎 有機農業を通じた町おこし. 農林水産省監修、JA全中、JA全農編、最新事例集 環境保全型農業、家の光協会、235-245.
- (小林康平)・武藤軍一郎 畜産環境問題. 九州農業経済学会編、国際化時代の九州農業、九州大学出版会、411-430.
- 西村光博 草地の永年維持・利用のための技術とその理念(2) 特に条播機による追播と日常の草地管理ならびに草地利用の考え方. 畜産の研究, 48:14-18, 256-258

1995年度

- 望月俊宏・中川幸夫・安河内和子・久保廣安 北部九州におけるダイズの晩播き栽培について－早生品種の生育と収量－. 日作九支報, 61:48-49.
- 中司 敬 農業用電動作業機の要素技術に関する研究. 九州大学先端科学技術共同研究センター年報, 1:60-61.
- 中司 敬 生物生産機械ハンドブック第4編2トラクタエンジン、生物生産機械ハンドブック(農業機械学会編)、コロナ社、265-272.
- (Liangjun, Z.), S. Shiraishi and A. Wakana Effects of KT-30 and GA₃ on fruit set and development in Kiwifruit. Acta Agr. Univ. Pekinensis, 21(Sup.):17-22.

口頭発表

1994年度

- Shiraishi, S. et al. A proposed database for evaluation of grape germplasm. 24th International Horticultural Congress.
- (Shiraishi, M.), S. Shiraishi et al. Geographical variations for sugars, organic acids and amino acids in grape germplasm. 24th International Horticultural Congress.
- (Matsuda, T.), S. Shiraishi et al. Pigments in fruits of several strawberry cultivars. 24th International Horticultural Congress Abstracts, 20.
- (鄭 紹輝)・望月俊宏ほか1名 収穫期前の降雨が夏ダイズ子実の品質に及ぼす影響. 日本作物学会.
- 望月俊宏・中川幸夫・安河内和子・久保廣安 北部九州におけるダイズの晩播栽培について. 日本作物学会九州支部会.

- (植田 徹)・望月俊宏ほか3名 根粒形成遺伝子の分子進化と宿主特異性に関する研究. 第5報 同一ダイズ個体における *B.japonicum* と *B.elkanii* の同時感染について. 日本土壤肥料学会九州支部会.
- 中司 敬・池田一敏・梶原良徳ほか2名 ヒューマンインタフェースと使いやすい農業機械—基礎実験システム—. 農業機械学会.
- Nakaji, K. et al. Human interface for the next generation agricultural machinery. International symposium on automation and robotics in bioproduction and processing, Kobe, Japan
- Hiramatsu, M. et al. A survey of microspore embryogenesis in leaf mustards (*Brassica juncea*). 24th International Horticultural Congress.
- 福留功・岡野香・山田定雄・古澤弘敏・中野豊 トカラヤギの発情と繁殖について. 西日本畜産学会.
- 古澤弘敏・岡野香・山田定雄・福留功・中野豊 トカラヤギの発情周期について. 西日本畜産学会.
- (増田泰久)・中野豊・梅津頼三郎ほか3名 九州中部高原地域の採草用草地類型、特にイタリアンライグラス—夏型1年生イネ科草交代草地の増加について. 日本草地学会.
- 中野豊・梅津頼三郎ほか4名 九州中部高原地域の採草用草地類型、特にイタリアンライグラス—夏型イネ科1年生草交代草地の生態的特徴. 日本草地学会誌
- (中島晃樹)・梅津頼三郎ほか6名 骨格筋の毛細血管分布に関する黒毛和種去勢雄牛と雌牛間での比較. 西日本畜産学会平成6年度(第45回)大会号、4.
- (後藤貴文)・梅津頼三郎ほか5名 黒毛和種雌牛の大腿二頭筋における筋線維型構成と毛細血管分布について. 西日本畜産学会平成6年度(第45回)大会号、7.
- (中島晃樹)・梅津頼三郎ほか6名 黒毛和種雄牛の骨格筋における毛細血管分布について. 日本畜産学会
- (後藤貴文)・梅津頼三郎ほか6名 黒毛和種雌牛の胸最長筋における筋線維型構成と毛細血管の分布について. 日本畜産学会
- 武藤軍一郎 阿蘇郡山東部畑作農業の構造. 農業史研究会
- 若菜章・花田信章・安河内幸一 カラタチ'ヒリュウ'における交雑実生の幼樹開花. 園芸学会九州支部研究集録、3:9-10.
- (嬉野健次)・若菜章ほか3名 日本産野性ブドウのアイソザイム変異. 園芸学会九州支部研究集録、3:59-60.

1995年度

- (島村 聡)・望月俊宏ほか1名 数種マメ科作物の胚軸根における破生細胞間隙について. 日作紀、64(別2):129-130.
- 望月俊宏ほか3名 深水条件下における浮稲および非浮稲品種の節間伸長性について. 日作紀、64(別2):31-32.
- 比良松道一・竹下繁・鳥飼芳秀・松石貴裕 シクラメンの栽培品種におけるAAT、GPIお

- よびPGMアイソザイムの変異. 園芸学会雑誌, 64(別2):452-453.
- (尾崎行生)・比良松道一ほか1名 アスパラガス品種におけるアイソザイム変異. 園芸学会雑誌, 64(別2):294-295.
- 岡野 香・中野豊ほか2名 久連子鶏の鼻孔突起の遺伝について. 西日本畜産学会報平成7年度(第46回)大会号, 25.
- (西村正太郎)・岡野 香ほか4名 トカラヤギの体各器官の相対成長に関する研究. 西日本畜産学会報 平成7年度(第46回)大会号, 23.
- (後藤貴文)・尾野喜孝・梅津頼三郎ほか9名 和牛肥育期間の肥育成績に及ぼす種々の要因についての研究. 日本畜産学会
- (Maruyama, K.) and Y.Ono The need for embryo extract by embryonic muscle cells from turkeys in culture. Poultry Science. Annual Meeting.
- (後藤貴文)・梅津頼三郎・尾野喜孝ほか7名 黒毛和種去勢雄と雌牛の大腿二頭筋における筋線維型構成の成長に伴う変化に関する研究. 日本畜産学会
- (福満裕二)・尾野喜孝ほか8名 見島牛の筋線維型構成について. 日本畜産学会
- (荒木直子)・尾野喜孝ほか8名 ウシコラーゲン線維の共焦点レーザー顕微鏡による観察と3次元立体再構築. 西日本畜産学会